第１回　鷹栖町議会定例会

一　般　質　問

質問方式：一問一答方式　制限時間：45 分間

尚、一部言葉使いなどに校正箇所があります

質問要旨：就農・農業体験・研修及び移住体験などの受入れ体制について

青野　敏

最初に、新型コロナウイルスの感染症の感染拡大に伴い、通常の国民生活をはじめ、社会経済全体に大きな影響を与えております。

行政での対応はもとより個人での様々な感染予防対策により、一日も早いコロナウイルス感染症の終息と、安心した生活が戻ることを願っております。

また、明後日の３月 11 日は、東日本大震災の発生から９年が経過いたします。未だに通常の生活に戻れていない方々の一日も早い、通常の生活が戻ることを願っております。

それでは、通告に従い一般質問をいたします。

近年、新規就農者の農業研修・移住体験ツアー及び農村での体験研修、更には、移住宿泊体験、ふるさとワーキングホリデーなど、さまざまな事業において、全国各地より多くの方々が本町に興味を持ってお越しをいただいております。

特に農業分野では、第三者継承による新規就農者の就農も数件成立をしておりますし、担い手センター開設に伴う、農業研修生の受入れや移住体験ツアーによる、就農研修などにおいても成果が現れております。

また、移住定住対策の面においても、体験者の中から転入実績もあり、今後に向けて大きな期待が持たれております。

現在取り組まれております各事業の受入体制について質問をいたします。

一点目に、全国にＰＲをしている本町への移住に関する取組みや移住体験、更には、移住に伴う生活基盤などの情報提供及び新規就農研修事業やワーキングホリデーなど、参加者の目的はそれぞれですけれども、本町にとっては定住人口の増加や後継者対策の観点からも重要な取組みであると考えております。

将来を見据えて、今後も重点的な施策であると考えられますけれども、事務的・業務的な受入体制について、町長のお考えをお伺い致します。

谷　町長

それでは、青野議員の御質問にお答えいたします。

本町は、観光地も乏しく交流人口が近隣市町よりも比較的に少ない一方、基幹産業である農業の推進や健康づくりをはじめとした住民の福祉の充実に取り組んでまいりました。

まちづくりのコンセプトは浸透し、旭川市と隣接する立地条件の良さもあり、宅地造成の実施の結果、人口を伸ばし現在の状況まで維持してきたことは御承知のことと思います。

人口減少問題が浮き彫りになり、平成 27 年度から地方創生の取組みが全国的に進められ、本町においても移住定住施策を本格的に実施してまいりました。

人口を増やすことは、町を持続させるために重要なことでありますが、今まで培ってきた町の歴史や住民の思いをしっかり伝えていくことも重要であり、地域とのコミュニティーの重要性や、不足する地域の担い手となっていただけるような取組みとなるよう、相談をはじめ移住希望者に対しては丁寧な対応に心がけてまいりました。

一つ目の、受入体制や、事務・業務についてでありますが、募集から来町するまでの調整などを全て職員により行ってございます。

新規就農事業においては、農業交流センター「あったかファーム」において研修を実施しており、現在３年目を迎えようとしております。

新年度も２名の研修者が決まり、希望に満ちた就労に向けて研修に取組むこととなっております。

研修者が決定された後は、これから永住することとなる鷹栖町での生活のために必要な情報の提供や、生活の基盤となる住まいを希望に合わせて手配を行い、研修中の実施研修はもちろん、座学まで農業交流センター主体で研修が行われます。

短期で来町される東京大学のインターン事業やワーキングホリデー・移住体験ツアーについては、研修する農業者とのマッチングや作業内容など職員が調整し対応してございます。

インターンやワーキングホリデーでは移動手段がありませんので、空港等との鷹栖町間の送迎から始まり研修先や買い物等の移動のほか、来町される学生のほとんどは、地域との交流も望んでおられますので、可能な限り地域イベントへの参加につないでおります。

少しでも、鷹栖町の良さを知り、発信してもらえるよう対応しております。

短期事業の特徴としましては、受入農家協議会に参画している農業者の皆様に近い町内会館を利用していただくことで、農業者とのつながりや、地域のあり方を学んでもらうことが有益であると考えています。

大都市圏で学ぶ学生たちにとって非日常的な体験が新鮮であるとの声もいただき、農業者の温かい歓迎を受け非常に満足いただいていると考えてございます。

青野　敏

ただいま、町長から細かくそれぞれの事業について説明をいただきました。

まず１点目として、インターン、ふるさとワーキング、体験ツアー、さらには移住体験、新規就農も含め受入れの募集をしている状況だと思います。

まず受入れ体制として、総務企画課が所管している事業と産業振興課が所管している事業体制を伺います。

谷町長

総合的には総務企画課の企画部門で担当してございます。

体験事業には農業という部分が大きいものですから、実際に入ってきてからは産業振興課の職員が農業者と調整をしながら、参加者の対応をすることもございます。

事業が忙しい時期と重なるものですからそれらは調整しながら、各係と連携しながら進めているのが現状でございます。

青野　敏

事業を行うにおいて、受入農家協議会の方々や農業者の方々にも協力して頂きながら、来ている方々の思いがあると思います。

インターン事業は東京大学から、2018 年から３カ年来ております。

この方々についても、それぞれ鷹栖町に来て農業や様々な体験の中から、移住計画や満足度アップなどの報告書を提出していただいています。

こういう報告書は体験で来られている方々やホリデーワーキングで来られている方々、鷹栖で体験をした感想やアンケートを頂いているのでしょうか。

谷　町長

アンケートはとってございます。

青野敏

大学生、社会人もいらっしゃいますが、体験のアンケートを頂いたあとにどの様に活用しているのでしょうか。

アンケート内容での要望も含めて、鷹栖町とのつながり等のアフター体制はどうなっています。

山原総務企画課参事

このアンケートの関係でございますけれども、今年度からアンケートのほかに、大学生やワーキングホリデーについては、直接面談をするという行為を行っております。

その中で、ワーキングホリデーに限ってはですね、基本的には大学生だけではなくて社会人の方も参加されるということで、地方との交流が目的で来られ

ていますので、地域の中でどのような交流ができるのかということについて、いろいろ議論はさせてもらっております。

ただし、受入協議会の農業者のところに行かせていただいておりますけれども、基本的には非常に満足していただいているということで、今の体系をそのまま続けてほしいというのがその中での話であります。

むしろ事務的に例えば、このようなものが足りないですとかの部分については、来年度また検討していきたいなというふうに思っております。

また、インターンについても基本的には対応は、ほぼ産業振興課にはなりますが、いろいろな交流した中で様々な意見はいただいております。

また、そちらについてはですね、青野議員もご存じのとおり提言も含めましてありますが、あくまでも首都圏の大学生がこの中山間地域で暮らすということを体験するのが中心であります。

これは学校側の考え方ということで、先ほどのワーキングホリデーや基本的には賃金が出るか出ないか、全く違うものでございますので、目的に合わせまして、対応しているような状況でございます。

青野　敏

担当の参事から説明がございました。

大学生のインターンについては、若い方々の視点に立って細かく提言をいただき冊子になっていますので、本当に大事なことだと思います。

やはり我々が感じないことを都市部の若い方々が鷹栖町という土地に来て体験され、その中でどういうものが鷹栖町に足りないのか、また、どういうものを望んでいるのか等大事な提言書だと思います。

ぜひ、こういうものを生かして、今後の将来の事業につなげていっていただきたいとと思うのが一点です。

また、この体験ツアーについては一般社会人をはじめ、御夫婦で農業分野や介護分野等に参加されています。

１名については槇さんですけれども、この方は移住での新規就農ということで北成地区への研修に入られています。

この実績というのは大変素晴らしいことだと思いますので、ぜひ、インターンの方々と同じように農業分野や介護分野を目指して当地に来ていただい方々の意見をしっかりと受け止めた中で、鷹栖町に何が足りないのか、何が必要なのかを整理して、今後の移住体験・体験のツアーに役立てて頂きたいと思いますが、参事のほうでまとめているのはありますか。

山原総務企画課参事

移住体験ツアーについては、先ほどの二つの事業と違いまして、より、移住をしたい方を対象にしている事業でございます。

ご存じかと思いますけれども、基本的には旅費、交通費全て本人負担。

賃金も発生しないという中で、本町に来られるということで、より鷹栖町での暮らしを感じたいということで来られている方が多いと思います。
その中で先ほどおっしゃられた槇さんのほかにも１名、もう既に移住されている方がございます。
また、今予定していますのは４月以降２名の方が、移住体験ツアーで参加された方が移住され、１人の方は既に空き家を購入されているということも承知しているところでございます。
更に、住宅に関してもさまざまな御意見等いただいております。
移住体験ツアーについては、基本的には自分でレンタカーを借りて自分で行動されますので、なかなか職員の接する時間というのは無いのですが、その中でも仕事の問題を心配されている方が多いです。
旭川市を含めて様々な情報を提供しておりますし、メール等で相談をしながら続けておりますので、その方に合った情報提供について努めているところでございます。

青野敏
それぞれ来られる方の思いに沿った形で、これからも計画をしたいということでございますから、是非とも来ていただいて実際に体験していただいた方々の意見というのは大事だと思いますので、情報を蓄積して今後の事業にしっかりと役立てていただきたいと思います。
私はですから、アフターですね。
来ていただくというのは大事なことであり、後の対応次第で依りつながりを持ってアフターを大事にしていただきたい。
そんなことを考えますけれども、町長はどうでしょう。

谷　町長
山原のほうからも申し上げましたけれども、こちらは懇切丁寧にと言いましょうか、移住も含めて向こうからオーダーのあったものに対して、丁寧にお答えをさせていただいてございます。
青野議員おっしゃるとおり、地方創生では定住人口のほかに関係人口というのは非常に大事にしていく必要性があるということで、重点におこうというふうに考えてございます。
大学生となると発信力というのが非常にありますので、当町に来ていただいてスマホで写真を撮ってもらって、それをＳＮＳで投稿していただく。
そのような取組みもしながら、鷹栖のいいところを学生の力を借りながらＰＲをするという、そういうような取組みも今後も続けてまいりたいと思います。

青野　敏

この件については宜しくお願い致します。

２点目として、新規就農研修生や移住体験ツアーの参加者等、さまざまな事業で多くの方々が本町にお越しをいただいているのは、先ほどもお話をさせていただきました。

ただし残念なことに受入れ宿泊施設が鷹栖町にはございません。

参加者が充実した研修・体験を行うためにも、様々な分野で総合的に使用できる宿泊研修施設が必要と考えますがお考えは。

谷　町長

２点目の宿泊研修施設についてでありますけれども、移住体験ツアーについては、移住を本気で考えている方が来町されレンタカーも自前で用意されておりますので、移住体験住宅に滞在をいただいております。

短期のインターンやワーキングホリデーにつきましては、１点目でも御説明をしましたけれども、町内会館を利用させていただき滞在をしております。

短い期間で濃密な関係を構築してもらい、確りと鷹栖の良さを知ってもらうためにも現在の事業の目的でもある、地方での地域交流や体験の観点からもできるだけ、訪問先の皆さんに近い場所で暮らしを実感していただきたいと考えております。

御指摘のとおり、参加者が充実した研修・体験を行うためには宿泊研修施設が必要との考えは共感でき必要性は理解できますが、専門性のある研修は、現在実施している新規就農者を養成する「あったかファーム」において、しっかり実績をつくっていくことが優先と考えております。

また、ワーキングホリデーやインターン事業においては、募集段階で町内会館の間取りや利用条件を提示した上で、応募をいただいております。

そのためか、参加者それぞれと振り返りや、アンケートに回答いただいておりますが、施設の不便さに対してよりも参加者同士の交流の場の提供など、前向きな御意見をいただいております。

このような観点から、御質問のあった宿泊研修施設については、研修生が集まる形態での施設の用意を現在のところ考えておりません。

一方で、新たな宿泊場所として、公営住宅についての活用を検討しております。

短期入居での滞在が可能になれば、参加者の宿泊に関する選択肢も増やすことができますので、関係機関と引き続き協議を進めてまいります。

青野　敏

町長からも公営住宅の話が出ましたが、私も賛成です。

公営住宅や空き家情報もあるでしょうから、鷹栖町の自然を満喫していただくという意味においても、空き家の活用もありだというふうに私は思っています。

その辺も含めながらですね、鷹栖町に研修に行きたいなと思っても、うん？と感じるところと、是非自然を味わい、色んな方々と交流をして農家の生活を実体験したい方もいらっしゃるでしょう。

しかし短期の方はそれで良いのでしょうけれども、長期にわたる農業研修の研修生は１年・２年ありますので、今は民間アパート等を利用しておりますが、２部屋ないし３部屋ぐらいは確保していただきたいと思いますがどうでしょうか。

谷　町長

先ほどの答弁のとおり、これから研究をして検討してまいりたいと思います。

青野　敏

近郊の自治体でも宿泊研修施設を設置しているところもあります。

上川管内だけにおいても、上川町、下川町、美深町、音威子府村、富良野市には、それぞれの農業体験等の研修生滞在施設というのがあります。

鷹栖町でも、新規就農者や研修生の受入が年々あるわけですから、最低でもその方々の１年目位は宿泊研修施設での研修体制が必要だと思うのですけれども、これから検討ではなく用意をするという考え方はないですか。

谷　町長

最初の答弁でも申し上げましたけれども、専用の宿泊研修施設を建てる考えは現在のところ持ってございません。

今は、公営住宅も空き部屋がありますので、そちらをですね活用して受入れできるように、検討をしているところですので御理解をいただきたいと思います。

青野　敏

是非、既存の施設を早急に体験ツアーや新規就農を含めて用意する、そういうことを約束していただきたいと思います。

あわせて、担当課の方々が大変苦労しているのは、この宿泊施設にあわせてお風呂や買い物ではないかと思います。

ですから、早急な公営住宅と空き家活用を研修事業で取り組んでいただきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

谷　町長

移住定住、また関係人口を増やすというのは、町の受入れの対応と本気度が非常に大事だというふうに思ってございます。

人と人とのつながりというのは非常に大切だというふうに実感しておりますし、更には、環境というのも非常に大事ですけれども、そこ事を１番に首都圏から来られている方は随分求められています。

また、アンケート等でもお話を聞いてございますので、それらも含めて、より、こちらに訪問しやすい、研修しやすい対応ということを、これからも努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

青野　敏

ありがとうございました。

今の関係も含めてですけれども、総務企画課、産業振興課が中心となりそれぞれの分野の方々が協力をしてこの事業というのは成り立つのだと思います。

こういう事業を最終的に完結するには、プロジェクトチームでの体制ぐらいの考えがあってもと思います。

今、言った宿泊の関係も含めて農業者の研修先、様々なアフターケア等を総括してプロジェクトチームが行う体制。

それぞれの協力体制で事業を行うというのは大事なことでしょうけれども、プロジェクト的な中心的部署を設置する考えは。

谷　町長

移住定住については、非常に重要な課題だというふうに思ってございまして、これらを解決するために職員にも随分話をしてございます。

現在、総務企画課の企画部門と産業振興部門と連携してございますけれども、プロジェクトチームという名前はついていませんが、お互い連携を取りながらワンチームで仕事を行っていますので、青野議員がおっしゃるとおり、肝に銘じて、これからも進めていきたいと考えてございます。